特定非営利活動法人
シビルNPO連携プラットフォーム

CNCP通信 Vol.11

平成 27 年 3 月 10 日発行

巻頭言

「つながり・つなぐ」

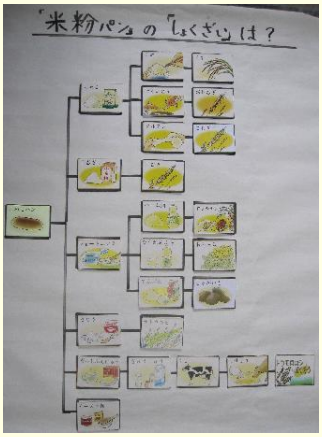
シビル NPO 連携プラットフォーム　　理事　**髙橋 万里子**
（NPO 法人　水・環境ネット東北　専務理事）

人間も含めた動物（ペット・家畜・野生）が生きていく為に必要なモノは、水・食べもの・隠れ場所（家）・生活空間（地域・コミュニティ）の４つの要素と言われています。特に野生の動物は、生息要素が一つでも欠けると生息環境が崩れ種の保持に影響が出ます。自然災害等での環境攪乱は、一定期間を経て自然の力でゆるやかに再生されることもありますが、人為的な攪乱の場合（開発など）は、生息環境が復元せず、種の絶滅へと推移する場合もあると思います。最近の環境問題のキーワードは「生物多様性」。その主要テーマは多くの生きものから人類が如何に多くの恩恵を得ているか気付き感謝するとともに、その多様な生き物の生息バランスを人類の手により破壊しないようにすることであるといわれます。

今回は、その４つの要素の中でも「食べもの」について考えてみたいと思います。

皆さんは毎日何を食べていますか？主食はご飯ですか？パンですか？それとも麺類でしょうか？副菜は、野菜が主でしょうか？魚や肉が主なオカズですか？

兎も角、食事は健康な心と身体を作る源であり、生きる活力源です。例えば、朝食に白飯を食べた場合はお米（稲）の”いのち”を頂くと表現するとします。では、米粉パンの時は、①米粉（米・稲）②小麦粉（小麦）③バター（牛乳⇒乳牛⇒飼料）④砂糖（サトウキビ）⑤イースト菌などなど白飯に比べて多種多様な食材（食べ物のいのち）をいただくこととなります。③バターは牛乳から作られ牛乳は乳牛の乳。その乳牛が育つには何種類かの飼料が必要です。飼料のデントコーンも“いのち“です。学校給食の定番チーズハンバーグは多くの子供たちの好物です。給食の献立の中でもダントツ好評です。ハンバーグを組成する食材をカウントするとなんと約 33 種もの食材の”いのち“を頂くこととなります。何気ない日常のくらしの中で私たちは、植物や動物の多くの命をいただいて生かされているのです。それぞれの生き物のいのちが、私の活力源となります。食材たちの命に感謝の気持ちを表現して食事を頂くとき、私たちは『いただきます』という言葉を発しています。



このような、環境学習プログラムを小学生向けに作りました。多くの「いのち」で作られた「食べ物」、その「食べ物」によって支えられている私たちの「いのち」の大切さに気付くとともに、「食物連鎖」が「いのち」の繋がりでもあることを伝える事。をねらいとしました。このプログラムの実施を保育園から依頼されました。４歳児と５歳児 27 名です。”いのち”をどう説明したら伝わるだろうか？担当メンバーは当日まで悩みました。導入に、青虫さんと葉っぱの関係などイラストを使って紙芝居風に興味を喚起したりしました。それも杞憂だったようです。園児の柔らかい頭脳は、”いのち”を真っ直ぐに受け入れてくれたようです。

社会の基で、道路や橋梁、河川工事などイノチを支える役割を果たしている土木は、命をつなぐ食べ物と共通点があるのではないかと思います。